

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度（令和2年度）	科目名	外国語	
科目基礎情報					
開設学科	AIシステム科	コース名	—	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	開講時間		授業形態	講義
教科書/教材	資料を配布する				
担当教員情報					
担当教員		実務経験の有無・職種			
学習目的					
<p>基本的な英文法の再確認から英語での意思伝達に至るまでをディクテーション・ライティングそして発表するという学習によって習得する。また情報処理に関するものばかりでなく様々なビジネスに使われる文章を学習することで英語に対する苦手意識を払拭し、英語というツールを活用して海外への視野が広がることをねらいとする。</p>					
到達目標					
<p>以下の4点を習得することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 短い会話の内容や意味を大まかに理解し聞き取ることができる。 2. 基本的な英文法が理解できライティングの際使いこなせるようになる。 3. 語彙を増やし発表の際うまく取り入れることができる。 4. ナチュラルスピードで自分のライティングを発表することができる。 					
教育方法等					
授業概要	ライティングに必要な英文をディクテーションする。授業の最後に発表するための準備としてナレーターと同じ速度とリズムで音読できるようにする。文法解説をした後、容易にライティングに取り組めるよう文法の演習問題をする。日常英語をライティングし発表する。また、情報処理に関する資料を使ったリーディングも行う。				
注意点	積極的に授業に参加してもらうため復習は必ず行うこと。授業中の私語や授業態度には厳しく対応する。授業時間数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	80%	試験や課題を総合的に評価する		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	10%	ライティングの発表で評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回） 1回（2）時間 ※45分を1時間とする					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	進行形	進行形を使った文章のリスニングができる 進行形の文法を理解できる			
2回	進行形を使ったライティング	GCPの環境に依存した状況で、機械学習のアルゴリズムの実装を行う。TensorFlowの実行環境を行う			
3回	未来形	GCPの環境に依存した状況で、機械学習のアルゴリズムの実装を行う。TensorFlowの実行環境を行う			
4回	未来形を使ったライティング	未来形を使った日常英語ライティングができる 発表することができる			
5回	助動詞(1)	助動詞を使った文章のリスニングができる 助動詞の文法を理解できる			
6回	助動詞を使ったライティング	助動詞を使った日常英語ライティングができる 発表することができる			
7回	助動詞(2)	助動詞を使った文章のリスニングができる 助動詞の文法を理解できる			
8回	助動詞を使ったライティング	助動詞を使った日常英語ライティングができる 発表することができる			
9回	受動態	受動態を使った文章のリスニングができる 受動態の文法を理解できる			
10回	受動態を使ったライティング	受動態をを使った日常英語ライティングができる 発表するすることができる			
11回	比較	比較を使った文章のリスニングができる 比較の文法を理解できる			
12回	比較を使ったライティング	比較を使った日常英語ライティングができる 発表するすることができる			
13回	不定詞	不定詞を使った文章のリスニングができる 不定詞の文法を理解できる			
14回	不定詞を使ったライティング	不定詞を使った日常英語ライティングができる 発表するすることができる			
15回	フリーライティング	パラグラフライティングができる 発表することができる			